

[意見交換会の概況]

4項目の素案に対する意見を求めたが、全体的にはなり手不足と、その要因として、議会・議員の活動が住民に理解されていないという面が主題となり、その対応についての意見が多く聞かれた。意見の多くは本検討会でも議論されているように、議員個々の活動についての情報発信が求められているというものや、そのためにはネット・SNSの活用が有効であるといった意見であった。

総括として、定数・報酬の問題の表裏の関係で、議員の活動への理解（＝見える化）があり、そのことがなり手不足の大きな要因であることから、表裏をセットで考えなければならないとの意見であると受け止められる。

[参加者の意見]：参加者の意見を要約、項目ごとに整理したもの。

（参加者：60代女性・男性各1人、40代男性1人、20代女性2人 の5人）

1. 議会・議員の情報発信について

(1) 町民アンケートを見て

- ・「議員は何をしているか」という意見が多く、自分もそう思っていたが、今回、資料を見てわかった。こういう状況を、広く住民に知らせるようなこと頑張っ
てほしい。
- ・議会活動を住民の方がよく知らないという意味での不満がある。
- ・議員が何をしているのかわからないということ。町の代表なのに何をしている
かわからないと不安になるし、何のためにいるのだろうと考え批判的になる。
- ・率直に意見が出ている。町民が思っていることは、大津町だけじゃなく、ほと
んどの議員に対して思っていることだと思う。そういうことから議員の数が
減っていることに納得する。町民の考えを変えていくっていうことも大事。議
員と町民が歩み寄ることが大事。お互いの考えを大事にする必要がある。

(2) 情報発信について

- ・地元の議員や関わりのある議員はしていることはわかるが、知らない方は必ず
しもわからない。知っていけば、大津町のためにやってくれるっていうのがわ
かれば、報酬を上げるとか、議員を増やすとかいうのが出てくる。
知らないとか、悪いとこしか知らないとかがあると、せっかく一生懸命やって

いても、評判を聞いて、不信とかが広がる。活動している人はどんどんPRするといいと思う。

- ・議会だよりだけでは足りない。議員がどういう活動、仕事をどれぐらいしたか全然わからない。結構親しい議員でも全部分かるわけじゃない。普通の人には、なかなか自分に関わりがあることじゃないと、歩み寄ることはない。その人たちにも興味を持ってもらえるよう発信をする責任は議員側にあると思う。
- ・議員だよりを持ってくる議員もいる。しかし短い文章で、項目で書いてあるだけだからあまり興味がない。
- ・議員によって議員だよりを自分の近くの方には配る、全体に配るというスタンスは違うと思う。
- ・議員の活動報告を見たことがない。どこにあるか、どこでもらえるかもわからない。あることも知らなかった。
- ・やはり議員がどういうふうな活動しているかを住民にきちんと知ってもらえるというのは大事な視点。
- ・自分が住んでいた町にはCATVがあった。それで議員の情報なども家のテレビで見られる。そういう状況を作ったほうが、何かネットを介しても情報を知る機会を設けた方が今の時代にあっている。
CATVはチャンネルを変えれば見ることができる。映像配信は、意識して見なようとしなければならない。見ようと思わないので、視聴が少ない。
- ・議会配信の検証が必要。

【まとめの発言から】

- ・議員だよりを、広くたくさんの人に配ってもらいたい。議会だよりの内容にもっと個人の活動を盛り込んだりしてもよい。理想としては、全議員の議員だよりがまとめて、何かに入っているというようなものが出来ないものかなと思う。
議員の人となりなど、そういうことが知りたいということ。
それが成り手不足というか、関心を高めると思う。
- ・議員だよりを2000枚、3000枚配るとするのも大変。ネットでいいので、各議員がやっていることが見えればいいのではないか。
- ・SNSの活用、アプリの特徴から公式ラインが最適と考える。受信者に何かメリットがある形で。

2. なり手不足

- ・議員になろうと考える人がいない。メリットが思いつかない。
インターンシップで関わった議員の中には、町のためにとか町を変えようとか、こうしたいとかいう思いがあった。一般的な町民にとって、町のために考えるより、自分の生活が1番だと思う。自分のためになるメリットが見えない。議員になって何になるんだろうと思う。報酬が低いのもそう。
- ・議員に良いイメージがわからない。私たちにとって議員といえばテレビで見る国会議員が身近。テレビで見るのは批判的な意見や殺伐とした議会の様子、不祥事を起こしたことばかり見かける。
国会議員と町の議員は違うことがわからないと、議員とは自分はちょっと遠い存在として認識してしまい、近しいものっていうイメージがわからない。
- ・同じ年代の方だと議員とつながりがあるかもしれないけど、私たちなど若めの世代が議員と関わる機会はあまりないと思う。
- ・議員が大幅に何かを変えたってならないと、議員になっても結局何か変えられるわけではない、意味がないと考える人もいる。

【まとめの発言から】

- ・なり手不足が1番大きな問題で、その背景にあるのは議員の活動というのがよく見えてなくて、具体的に何をやっているかを、わかる人がいないのが原因かなというふうに思っている。それを克服するには、議会だよりやSNSなどが方法かと思う。

3. 議員定数

- ・人口が増えているのに議員定数を減らすのはどうかという思いはある。
しかし現在は人口が増えているが、将来は減っていく。それに対して臨機応変に対応していく必要はある。
- ・人口に対して何人必要かという考えは持っていなかった。
- ・議員の数は多い。海外の事例では、くじ引きで交代制などもある。女性が少ない。クォーター制の導入など思い切った働きかけを。
- ・議員は、自分の地域のために活動するという古い考えではなく、町全体を見て

働きかけてほしい。地域の代表というより大津町全体をみんなで考えるという考え方であれば16人から減らしてもよい。(超意訳)

4. 議員報酬

- ・ ボランティア的精神でやるべき。報酬は日割りとか日当制。
- ・ 時間を捻出している以上やっぱり対費用というのが必ず発生する。
ボランティアという形はいかがなものか。
- ・ 報酬に見合う活動していると町民が思えば、報酬を上げることも可能だと思う。
- ・ 今の議員報酬は兼業でないと、生活を考えたときには厳しいという実感。
しかし、上げるとするには税収というものがある。入ってくるものがないのに、出ていくものを上げるっていうのはどうかという気持ちある。
- ・ 収入については二つ考え方があると思う。サラリーマンと自営。
議員の場合、議会に出席するとか、委員会に出席するとか、視察とかそういう、そういう活動が働いていることになると思う。
日常の議員活動とは基本的には自営業でいうコストだ。自営業だとこれは単価に反映されるので単価を上げるしかない。
- ・ 議員は後者(自営業)だと思う。であれば、それだけで生活できるレベルにできるか、兼業しながら両立させていくほうが町のためにいいのか、すごく迷う。
- ・ 物価も上がり給料も30年上がらない、そういう時代に、大津町はこれから発展するだろうという想定でそっちのほうにお金を充ててもいいのかと思う。
これからどんどん成長するということではなく、自分たちの町のことだけじゃなく、全国的な、日本全体の経費を考えた場合のことも忘れないでほしい。
- ・ 提案された議長会モデルの算定については、抽出ではなく、住民としては全員分を知りたい。
- ・ 自分も自営。電話がかかって、お客様のところに行って見積りをして、実際に仕事をして、お金をもらうまでが仕事。議員もそうだと思う。ボランティアもしているが、仕事は仕事、ボランティアはボランティアという気持ちでやっている。
- ・ 自分の地域では人がどんどん減っていて「地元議員を出せ」と言われても無理。自分も出ろと言われるが、生活があり無理だと言っている。
- ・ 議員は議会に出て何か成果を出すことが仕事ではないか。わかりやすい例だと一般質問の質問した人に対しては何か上乘せがあるとか、思いつきで言っているが、そうすれば、議会がもっと盛り上がるんじゃないかと思ったりする。

【まとめの発言から】

- ・議員だよりをネットで見られれば調べたい人はすぐ調べる。議員を身近に感じ、身近な議員が増えていけば、関わりも増えて、そうなれば議員報酬も多少上げてもいいと思う。
- ・若手を誘うには多少上げないと無理だと思う。20代の方が本当に頑張っていて、ビラも配って、20何万だったら、多分誰もしない。
- ・今のお金だとそれだけで、議員専門でやっていくことは無理。議員報酬の見直しが必要。それと（並行して必要なのが）見える化。

5. 政務活動費

- ・相談した友人の意見だが、政務活動費を取り入れた場合の煩雑さで議会事務局が大変でネックになるっていうことなら、それを第三者機関にお願いすることはどうか。

【まとめの発言から】

- ・政務活動費をもうちょっと議員報酬の議論と抱き合わせて考えたほうがいいと思う。
- ・政務活動費は活動した経費に対して払われる実費だが、その実費の額を変えていくことを考えていくのも一つの手かと思う。